

大湯ノ北一里ノ地ニ在リ泥板岩中ヨリ湧出ス温度ハ前者ヨリ低ク無味無臭ニシテ明礬泉ナリ雨天ノ際少シク温度ヲ高ムルトイフ。

(乙) 荒雄岳中

荒雄岳ヲ圍流スル荒雄川沿岸ニハ數箇ノ溫泉配列セリ東側ニアルハ荒湯濁湯ニシテ西側ニハ宮澤ノ湯、吹上、轟、寒風澤等アリ就中世ニ名アルハ荒湯、吹上、轟等ナレドモ吹上ハ間歇溫泉トシテ著名ナルモノナレバ別項ニ之ヲ讓ルコト、シ茲ニハ左ノ二溫泉ヲ擧ゲン。

(一) 荒湯

荒雄川ノ水源ニ湧出シ荒雄岳ノ南半腹ニ在リ嘗テ此附近ニテ三井鑛山會社ハ硫黃ヲ探掘シタル處ニシテ硫汽洞ニ伴ヒ泉源數箇所ニアリ無色無味ナレドモ硫氣臭アリ温度略六十度アリ。

(二) 轟溫泉

轟溫泉ハ荒雄岳ノ西麓荒雄川ノ沿岸平地ニ湧出ス無色無臭ナレドモ鹽分ヲ含有セリ温度四十五六度アリ。

第五編 結論

第三紀層既ニ生成セラレテ後造山力ハ西北ヨリ襲來シテ所謂日本弧ヲ構成シ奥羽地方ハ殆ンド南北ニ細長キ地形ヲナシ裏日本ハ地層ノ錯亂甚ダシク地體構造甚ダ複雑セリ之レ蓋シ火山活動ノ動機トナリタルモノニシテ地殼ノ弱點ニ就キテハ既ニ述ベタル如ク構造谷ト斷層トノ交叉點ノ附近ニ存在シ此處ニ火山現象ヲ見ルニ至レルナリ而シテ其基底ヲナセル第三紀層ハ「プリオシオン」期ニ屬スルモノトセルニヨリ火山ハ同期層成生後ニ活動ヲ初メタルモノナルベシ本火山彙中何レヲ以テ最初ノモノトシ何レヲ最後ノモノトスルカハ次ニ記スル事項ニヨリテ明カナルベシ。

沼澤火山ノ噴出セル流紋岩ハイタイ澤熔岩ニヨツテ被ハル(イタイ澤ニ露出ス)砥澤熔岩ハ荒雄熔岩ニ蔽ハル(國見峠ノ側ニテ目撃ス)

故ニ沼澤山ハ栗駒山發達ノ第二期ヨリ古ク荒雄岳ハ栗駒山第一期ヨリ新期ニ屬スルモノナルコトヲ證セリ而シテ其岩石ノ性質及ビ地形ヨリ之レヲ察スレバ沼澤山ハ本山彙中最古噴出ニカ、ル火山ニシテ荒雄岳ハ最新ニ生成セラレタルモノナルベシ。

栗駒山ノ發達史ヲ研究スルニ熔岩ハ多ク東、西、南ノ三方ニ流レ北方ニ少量ナリ是レ當時ノ地形ノ然ラシムル處ニシテ北ハ峨々タル第三紀層山脈連亘シ西ハ中腹ニテ沼澤山ニ遮ラル、モ東及ビ南ハ全ク開放セルヲ以テ此方向ニ遠ク流出スルヲ得タルナリ而シテ其岩石モ初メハ酸性ナリシガ次第ニ鹽基性ニ移リ來ルハ單ニ本山彙ノ特徴ニアラズシテ多クノ火山ニ見ル事實ナリ又更ニ各火山ノ噴出岩成分ヲ總括シテ比較スルニ沼澤山熔岩最モ酸性ニシテ栗駒山熔岩ハ中性ニ屬シ荒雄岳ハ稍、鹽基性ニ傾ケルガ如シ。

本火山彙ノ發達ニ就キ有史以來更ニ一ノ記録モナク又口傳モ存セズ唯ダ僅カニ須川温泉記（明治二十五年八月出版著者高平眞藤）ニ左ノ數行ヲ記スルアルノミ。

○硫黃山（記者註劔山？）常ニ氣煙ヲ發シ散石赤黒ニシテ鑄鐵ノ如シ手ヲ觸ルレバ最モ熱シ享保年中（今ヲ去ル百五十年前噴出シテ燃ヘル事アリキ又天明三年（今ヲ去ル百二十三年前）近傍村落ニ灰土ヲ降ラシ其秋稔ラズ土人饑餓ニ及ビシ事モアリキ明治十二年ノ比硫黃掘採ニ從事セシモノアリシカド一時ニシテ休業後又工業家相繼テ行ヒ今ニ及ベリ……云々

此記事ヲ讀ミ劔山ノ爆裂ニ相當スルニアラズヤノ念起レリ。

爾來今日ニ至ルマデ微弱ナル硫汽洞期ニ移リ八幡山附近ニハ百餘ノ汽孔ヲ有シ勢強カラザルモ絶エズ諸種ノ瓦斯ヲ噴出シ往々烈シク噴汽スル時アリテ側ラニ一二分間立タバ窒息スルニ至ルコトアリト云フ沼澤山ニハ昔時ノ活動遺物更ニ存セザルガ如ク荒雄岳ハ頂上ニ小噴火口ヲ存スルモ少シモ瓦斯ヲ吐ク道ナク只南中腹ナル荒湯及ビ瀉山ニテ硫汽ノ噴出セルアリ最近ノ記録ニヨレバ明治二十八年九月廿八日午前二時頃ヨリ二十回程ノ鳴動アリタリトイフ。